

# 木製コースター誕生の物語

～青梅の木を生活の中に～





(コースターに同封されているカード)

『青梅市』で、暮らしていく時間・・・

『青梅市』で、大切に育てられている青梅の木・・・

同じ土地で、同じように時を刻む。

ともに、愛情に見守られ。

皆さんの生活の中に、愛情をそそがれ、健やかに育った青梅の木を  
ぜひ取り入れていただきたく、コースターを作成しました。

コースター誕生の物語・・・

それは皆さんに、青梅の山林を知っていただくそんな機会に

つながっていただけたらと思います。

この、コースターができる過程をたどりながら、  
『青梅の森林』を、ちょっとのぞいてみませんか？



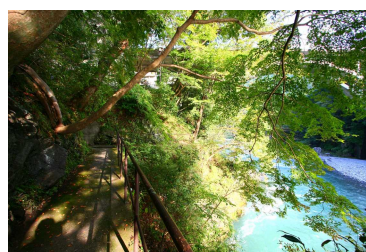
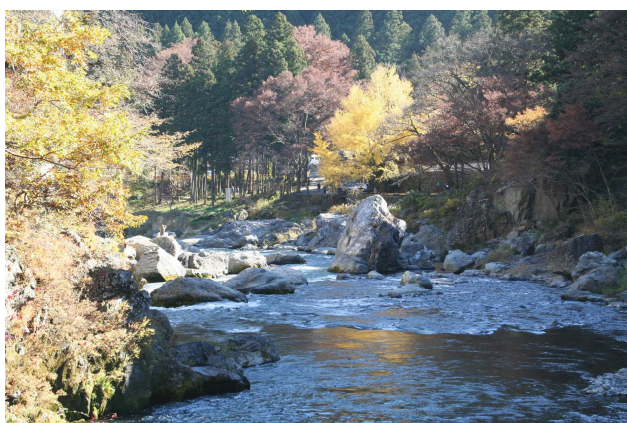
この木は、緑豊かな街・青梅市で育ちました。

青梅市は、総面積103.31㎡のうち、その6割以上が森林です。

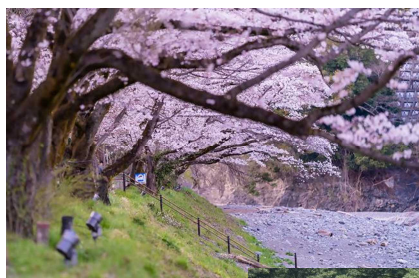


東西に多摩川が流れ、

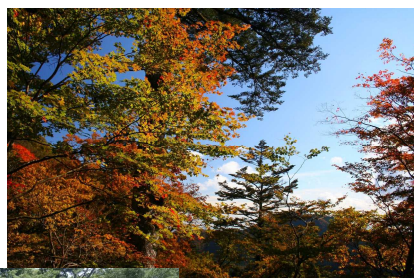
御岳渓谷は1985年に環境省から名水100選に選定されています。



杉やヒノキだけでなく、広葉樹も多い青梅の山は、四季折々に彩を変え、住む人の心に安らぎを与えています。



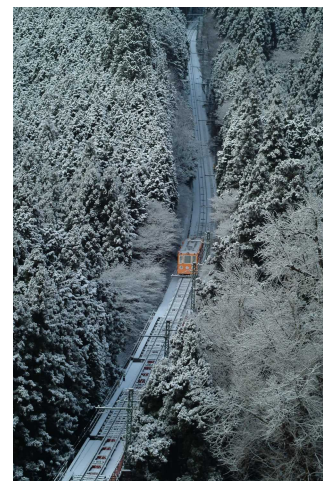
春



秋



夏



冬

このコースターは、そんな『青梅の森林』で育った木を使っています。

今回、皆様のお手元に届いた、  
青梅産材のコースターの故郷は  
青梅市御岳の山で育った、杉の木です。

山主さんが丁寧に育てた杉の木が、力強く  
空に向かって真っすぐに育っています。



（青梅市御岳の山々）



（今回の原材料の材を伐採しているところです。）

皆さんにお配りしたコースターの  
原木を伐採したときの写真です。

樹齢50年以上。  
大きな杉の大木です。

青梅市の山林の約75%は人工林  
です。  
人工林は、人の手で森林整備を  
行っている山です。

山の木々は、林業を営んでいる皆さんが、  
土を整え、苗木を植え、木々が幼いうちは  
健やかに成長するためにシカなどに食べられ  
ないように囲いをしたり、下草などの雑草  
を刈ったりとしっかり育つよう見守ります。  
成長とともに、立派な材木になるよう  
余分な枝を切り落とし長い歲月愛情をこめて  
見守ります。

木の成長を見守る標準的な歳月の目安は、  
杉や松は35年、ヒノキは45年位です。  
親子2代に見守られている木も、たくさん  
あります。



（伐採が終わったばかりの山の様子）

切り出された「原木」は、どこに運ばれたのでしょうか？



(多摩木材センター協同組合)

(多摩木材の競りの様子)

御岳で切り出された材木は、この多摩木材センター（原木市場）に運ばれます。多摩木材センターは、東京都内で 1 か所しかない丸太を売る市場です。製材業の皆さん（丸太を製材して柱や板にして販売をする業）が丸太を買いに、月 2 回売り買いの日（市・いち）に大勢来場します。

この、「368」と書いてある材木が、あの伐採した木です。



(競りにかけられる直前の原木)

多摩木材センターで無事に購入したこの丸太は、製材所に運びます。

あの大きな丸太を、板状に製材していきます。  
1 本の丸太を無駄なく使いきるように裁断します。  
丸い木をどのように切っていくと一番良いのか？  
熟練の作業員さんの経験が活かされます。



（製材所の風景：丸太がコースター作成用に裁断されていきます。）

裁断した木材は水分が多いため、乾燥させる必要があります。  
 今回のコースター用の木材は、約2週間、この乾燥庫で丁寧に乾燥しました。  
 木材本来が持っている油分と水分のバランスを見極めるのも大切です。



（上段の板がコースター用の木材です。）

乾燥が終わると、いよいよ加工作業に入ります。

乾燥した板を、レーザーで加工しやすいように薄く裁断し、機械に設置します。

今回のコースターは、青梅市の地域ブランディングロゴの「Ome Blue」と  
 青梅市への移住・定住に向けたキャッチコピー「My Home, My ome」を、あしらった  
 梅型のコースターを作ります。



まずは、レーザー加工機に  
材料の木材をセットします。

ふたを閉めてスイッチオン！

レーザー光線の熱でカッティ  
ングします。

繊細なカーブもこの通りきれ  
いです。



レーザーでカッティングが終わったコースターを取り出します。



青梅産の杉材を使用した  
コースターが出来上がりました。

ひとつ、ひとつ、  
丁寧に確認して  
皆様によろこんでいただけるよう  
メッセージカードを添えて。

青梅の森林を感じていただけたでしょうか？  
日常生活でぜひご活用いただき、青梅の森林を思い出して  
いただけると嬉しいです。

そして、あなたの故郷が『青梅市』になりますように。

